



篠路文化祭での子ども歌舞伎公演「白浪五人男」(平成20年10月12日)

# 篠路歌舞伎

## 園児が演じる伝統文化

篠路歌舞伎の主役は、小さな役者たち。篠路中央保育園(篠路二の九、林茂子園長)の年長組の園児たちが、週二回の練習を何カ月も積み重ね、公演しています。園児たちが堂々と歌舞伎を演じる姿が人気を呼び、地域の文化祭には欠くことのできない名物公演になっています。

毎年決まって行われている公演は、十月に篠路コミュニティセンター(篠路三八)で行われる篠路文化祭と一月末〜二月ごろに行われる保育園の「伝承式」。この伝承式で、三月に卒園する園児から次の年長児へ、伝統がバトンタッチされます。そして、伝承を受けた園児たちは、それからの一年間、歌舞伎役者として練習・公演を続けます。

## 復活そして新たな伝統

篠路地区がまだ篠路村だった明治三十五年ごろ。開拓農民の慰安などを目的に、地元の若者たちによって



公演前に園児に着付けする林園長

始められた篠路歌舞伎は、昭和九年にその姿を消してしましました。それから約五十年後の昭和六十年、篠路コミュニティセンターの開館がきっかけで篠路歌舞伎が復活します。開館記念として、地元の有志が集まり、歌舞伎を上演。これを契機に、篠路歌舞伎保存会(渡辺博会長)が発足します。その後、同保育園で子ども歌舞伎を園のカリキュラムに取り入れ、以降、二十年以上にわたり活動を続けています。「これだけ長く続けてこれたのは、子ども歌舞伎が

地域で愛されてきたからこそ。たくさんの観客から、大きな拍手と応援の声をいただくことで、園児たちには大きな経験と思い出ができるので、これからも続けていきます」と語る林園長。子ども歌舞伎の経験がきっかけで、自分たちの住む地域の歴史や文化に興味を持つようになる。演じ手も裏方も、そして観客も、歌舞伎を通じて地域が好きになる。地域の貴重な文化の輪が、小さな園児たちの手によって確実に広げられています。

### 資料展示コーナーのご案内

当時の衣装や台本など、わずかに残っている新琴似歌舞伎・篠路歌舞伎の貴重な資料を展示しています。

#### 篠路歌舞伎展示コーナー

- 所在地  
篠路3-8(篠路コミュニティセンター内) ☎ 771-3700
- 開館時間  
午前8時30分〜午後9時

#### 新琴似歌舞伎展示コーナー

- 所在地  
新琴似7-4(プラザ新琴似内) ☎ 764-8804
- 開館時間  
午前9時〜午後9時

